

学校目標・経営方針	自己の課題に積極的に取り組み、創造する力と豊かな個性を身につけ、社会に貢献する生徒を育成する。
-----------	---

山梨県立甲府城西高等学校校長 保坂 広光

本年度の重点目標	1 積極的に学ぶ生徒を育てる。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 規範意識の向上を図り、社会性を育む。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 心身を鍛え、豊かな人間性を育む。		C 不十分である。(4割以上)
	4 社会の問題を意識し、積極的に関わる態度を育てる。		D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価				年度末評価(2月14日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	積極的に学ぶ生徒を育成する	①自ら学び、考える力を育成するため、学習指導の工夫・改善に努める。 ②基礎的・基本的な学力を身につけさせ進路実現に結びつける。 ③体験的な学習を重視し、個性の伸長を図る。	教員同士の授業見学期間の設定 実力診断テストの実施、課外の充実 産社・総学における体験的学習の充実	教師・生徒・保護者アンケートの結果、①の評価は、「理解度に応じた指導の充実」→B判定55% 「指導の工夫改善」→B判定56% ②の評価は、「進路実現のための課外や小論文、面接の個別指導の充実」→B判定50% ③の評価は、「体験的学習の充実」→B判定51% であり、何れもBの割合が最も高い。	B	教育課程の改善に着手し、これと並行して、各教科で授業内容のさらなる工夫と充実を目指す。また相互授業参観も継続していく。
2	規範意識を向上を図り、社会性を育む	①自己を正しく理解し、在り方・生き方について考えさせる取り組みを実践する。 ②基本的生活習慣を確立させる。 ③集団生活のルールやマナーを身につけさせる。	各種講話の実施及び作文指導 遅刻指導、あいさつ運動の充実 服装頭髪指導、下校指導の実施	教師・生徒・保護者アンケートの結果、①の評価は、「産社や総学の講話の効果」→B判定52% ②の評価は、「あいさつ習慣の指導の充実」→B判定47% 「時間を守る指導の充実」51% ③の評価は、「集団生活のルールを守らせる指導の充実」→B判定56% であり、何れもBの割合が最も高い。	B	交通事故・違反の減少を最重要課題として、引き続き街頭登校指導(マナーアップ運動)やあいさつ、声かけ指導に努め、生徒の健全な「心の育成」にも取り組んでいきたい。
3	心身を鍛え、豊かな人間性を育む	①健康と安全に対する意識を深める取り組みを実践する。 ②部活動を活発にして、豊かな人間性を育む。	保健講話、生指講話の実施 本校独自の強化部の設定	教師・生徒・保護者アンケートの結果、①の評価は、「健康や命を守る講話の充実」→B判定53% 「防災安全教育の充実」→B判定52% ②の評価は、「部活動の充実」→A判定49%であるが、3つの指標に対し、B判定が2つ、A判定が1つということであるので、総合的にはBとしたい。	B	健康管理センターとしての保健室の機能を充実させ、健康教育に取り組んでいきたい。また防災安全教育の充実のために、防災訓練を効果的に行いたい。さらに部活動については、技術の向上だけでなく、部活動が豊かな人間性を育む活動となる場になるように努めていきたい。
4	社会の問題を意識し、積極的に関わる態度を育てる	①総合的な学習やLHRを活用し、個々の進路を意識させる。 ②我が国の文化や伝統に触れ、大切にすることを向上させる機会を設定する。 ③地域社会及び世界の諸問題に目を向けさせる取り組みを実践する。	年次・学級単位での計画立案 産社・総学における計画立案 地域の諸行事への参加	教師・生徒・保護者アンケートの結果、①の評価は、「進路意識を高めるための総学やLHRの効果」→B判定54% ②の評価は、「日本の文化・伝統に触れる機会の充実」→B判定48% ③の評価は、「地域交流への取り組み」→B判定49% であり、何れもBの割合が最も高い。	B	総合学科係とキャリア教育推進係の再編により、「産社」「総学」「課題研究」「インターンシップ」等の内容を整理し、より効果的に実施できるよう努めていきたい。

学校関係者評価	
実施日(平成26年2月28日)	
評価	意見・要望等
3	総合学科高校としての教育内容は評価している。とくにインターンシップの参加者が増え、成果報告会も充実していることは素晴らしい。幅広い選択科目について、教師のアドバイスが今まで以上に大切であるので、科目選択のサポートを充実させてほしいと思う。
3	この地域の他校の生徒と比べ、甲府城西高校生は一段と明朗、闊達であるという印象を持っている。また自転車走行や携帯電話のマナー、頭髪・服装等で、生徒の変化と生徒指導の努力・効果を感じている。先生方の声かけや指導が効果をもたらしている。引き続きマナーアップ運動に努めて欲しい。
3	部活動では、アーチェリーのように、クラブにも満たない同好会が堂々と全国に名を馳せたことは、学校にとどまらず、地域にとっても名誉なことであり、ともに喜び、感謝したい。
3	アンケートによると、近隣との連携・協力の達成度は他の項目より幾分低い。学校周辺の方々への配慮をお願いするとともに、生徒・保護者への広報活動を通して、地域との交流を深める努力を継続し、連携を模索してほしい。また災害時の対応についても協議しておいた方がよいと思う。